

異文化間教育学会 2021 年度事業報告

1. 第 42 回大会の開催

第 42 回大会 期日:2021 年 6 月 12 日(土)~13 日(日) 場所:玉川大学 大会準備委員長:小林亮会員、コロナ禍のためオンラインで行われ、参加申し込み 396 名、個人発表 49、共同発表 6、ケースパネル 1、ポスター発表 14、計 70 件の発表があった。

2. 『異文化間教育』第 54 号、第 55 号の編集と刊行(学会誌編集委員会)

第 54 号:2021 年 8 月に刊行した。

第 55 号:2022 年 3 月に刊行した。

第 56 号:2022 年 8 月に刊行予定。

第 57 号:2023 年 3 月に刊行予定。

第 58 号:投稿募集中。

3. 特定課題研究の企画・実施、公開研究会の開催、優秀発表賞の実施(研究委員会)

2022 年度の特定課題研究は、「異文化間教育学における研究方法論を考える -「移動」をめぐる経験を捉えるために-」をテーマとし、より会員の参加を促す試みとして公募制を取り入れた。10 件の申し込みの中から、4 名の発表者が決定された。

【第一回公開研究会】

2021 年 12 月 18 日(土)13:00~16:00 に zoom で第一回公開研究会を実施した。当日は最大 45 名(会員 35 名、研究委員会関係者 10 名)の参加があった。第一回研究会を踏まえて、登壇者と研究委員会にてどのように研究方法論に主軸を置いた議論となるかを検討した。

【第二回公開研究会】

2022 年 3 月 27 日(日)13:00~16:00 に zoom で実施した。当日は最大 38 名(会員 22 名、非会員 6 名、研究委員会関係者 10 名)の参加があった。前回のブレイクアウトルームの議論と比較すると、大学院生らがまさに取り組んでいる研究方法論的な課題として受け止めていたり、すでに大学教員として当然のように研究に従事する中で、改めて研究方法論を問われることの難しさなどが共有され、より議論が焦点化されてきた様子が伺えた。

特定課題研究のテーマを発展させるために、2 回のオンライン講演会を zoom で実施した。

【第一回オンライン講演会】

2022 年 3 月 13 日(日)14:00-16:00 に、名古屋大学環境学研究科教授の野村康氏から「認識論の射程:社会科学の方法論と学問領域における意義」のタイトルで講演していただいた。当日は最大で 70 名ほど(申し込みは 96 名:会員 62 名、非会員 34 名)の参加があった。講演では、認識論の意義や主な立場について、また、認識論と方法論の関係について、環境学や環境教育のコンテキストにおけるリサーチ・デザインや手法などの視点からお話いただいた。

【第二回オンライン講演会】

2022 年 4 月 9 日(土)14:00-16:00 に、神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部講師の知念渉氏から「研究者の視点の変化と調査法:〈ヤンチャな子ら〉への調査を振り返る」というタイトルでご講演いただいた。当日は最大で 65 名ほど(申し込みは 79 名:会員 45 名、非会員 34 名)の参加があった。研究方法論の視点から丁寧にご自身の研究を再分析するプロセスは、参加者にとっても既読の知念氏の著書を新たな視点から捉え直すきっかけとなった。また、具体的にどのように自分の研究を研究方法論の枠組

みから捉え直すのかを示していただき、参加者や特定課題研究の登壇者も含めて非常に良い機会となった。講演内容については、2022年4月13日～2022年4月30日までの期間、学会のYouTubeにて限定公開を実施した。野村氏の動画は計74回、知念氏の動画は計50回の視聴が確認された。

【優秀発表賞の実施】

第42回大会で実施した。優秀発表賞審査委員会が審査をした結果、井濃内歩会員（筑波大学大学院）「わたしたちのこぼ」に創発する居場所—留学生の逸脱的日本語によるあそびの分析から—に決定した。優秀発表賞受賞者の井濃内歩会員には、賞状および副賞が第43回大会総会にて授与される。

4. 研修会、講演会、著者と語ろうの会の企画・実施(企画委員会)

【第30回・31回研修会】

2022年3月11日(金) 19:00～21:00、『「多様性の教育学」構築に向けた対話と研究のインクルージョン』というテーマで研修会を開催した。参加者は、総数111名(会員:zoom参加50名 非学会員:YouTube Live参加61名)であった。パネリストは、赤木和重氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)、眞野豊氏(鳴門教育大学准教授)、山本冴里氏(山口大学国際総合科学部准教授)に依頼した。異なる領域(特別支援教育、言語、性の多様性)の研究者が自分の研究を紹介しつつ、同じ論点について気楽に気軽に話をし、ゆるやかに議論をしながら、他の領域との共通性や差異を見だし、新たな研究の糸口を見出すことができた。

引き続き、2022年3月23日(水) 19:00～21:00、同テーマで研修会を開催した。参加者は、総数72名、会員:zoom参加27名、非学会員:YouTube Live参加45名であった。パネリストは、原田大介氏(関西学院大学教育学部教授) 渡辺大輔氏(埼玉大学基盤教育研究センター准教授)に依頼した。教育方法、性の多様性の視点から研究を紹介し、領域・対象は異なるもののアプローチの仕方や考え方などに共通性を見出すことができた。

【著者と語ろうの会】

▶第6回「日本語教師の専門性を考える」(2021)ココ出版

テキスト:館岡洋子編著、企画担当:古屋憲章(山梨学院大学)

2021年12月11日(土)10:00-12:00に開催し、参加者は45名であった。

▶第7回「新グローバル時代に挑む日本の教育—多文化社会を考える比較教育学の視座—」

テキスト:恒吉僚子・額賀美紗子編著(2021)東京大学出版会

2022年2月12日(土)に開催し、参加者は35名であった。

▶第8回:『「人種」「民族」をどう教えるか—創られた概念の解体をめざして—』

テキスト:中山京子・東優也・太田満・森茂岳雄編著(2021)明石書店

2022年2月26日(土)に開催され、参加者は31名であった。

5. ニュースレター、メールニュースの編集と配信(事務局、広報・ICT委員会)

2021年10月25日付でニュースレター第69号を発行した。また、「異文化間教育学会メールニュース」の配信は、学会活動や会員間交流に関する情報メールを127件会員へ配信した。

6. ウェブサイトの更新・改修とオンラインによる活動の充実(広報・ICT委員会・事務局)

HPに情報を掲載し、99件のHP更新をおこなった。他の委員会と連携し、オンライン講演会のデジタル配信、ライブ配信に協力した。新たにInstagramのアカウントも開設した。また、ウェブサイトの改修作業を開始し、業者・デザイナーと打ち合わせを行った。デザインを決定し、構築作業を進めた。

7. 研究成果の発信促進(グローバル展開委員会)

第43回大会において英語セッションを実施するために、発表申込案内と「異文化間教育学会倫理綱領」の翻訳を行い、個人発表2件、共同発表1件の申し込みがあった。また、学会誌の英語発信の在り方、国際研究活動奨励賞の可能性について検討した。

8. 海外研究者との交流、海外の関係学術団体・機関との連携(グローバル展開委員会)

海外学術団体との交流の在り方として、まず広報・ICT 委員会と連携し、学会 HP において会員と共有するに資する団体について検討した。

9. 会員間の交流・ネットワーキングの促進、会員のキャリア・プランニングの支援(ネットワーキング委員会)

【第 42 回大会オンライン交流会】

2021 年 6 月 12 日(土) 12:00~13:00、「異文化間教育学会×国際理解教育学学会 合同若手交流会—学会を越えてつながろう—」というテーマで日本国際理解教育学学会と合同のネットワーキング交流会を開催した。参加者は、50 名(参加者 46 名、委員 4 名)であった。日本国際理解教育学学会との合同開催の機会を活かし、両学会の会員が交流できる場として企画をした。これまでの企画の参加者から得た意見を活かし、小グループでの交流方法で行った。

【第 1 回ネットワーキング交流会】

2021 年 10 月 9 日(土) 13:00~15:30、「思考整理ツールを使って、交流しよう!」を開催した。参加者 27 名(内委員 5 名、オブザーバー 2 名)であった。若手だけではなく、ベテランの方にも幅広く参加してもらえるよう、単なる交流目的の集まりではなく、思考整理ツールを体験するという目的も追加した形として企画した。参加者のフィードバックからは、思考整理ツールの体験や、ブレイクアウトセッションで同じグループになったメンバー同士の深い交流などを肯定的に捉える意見が多くみられていた。

【第 2 回ネットワーキング交流会】

2022 年 3 月 19 日(土) 13:00~15:10、「研究・実践お悩み相談ゼミ —オンラインでつながり、研究や実践を共に耕そう—」を開催した。今回の企画は、若手を意識した研究や実践のお悩みを気軽に相談できる場を設定した。22 名(発表者 5 名、参加者 12 名、ネットワーキング委員 5 名)の参加があった。発表者・参加者ともに高い満足度を得られた。

10. 教育関連学会連絡協議会の参加(ネットワーキング委員会)

2022 年 3 月 12 日(土) 教育関連学会連絡協議会に参加した。

11. 学会の中長期的な展望やその実現可能性の構想(将来構想委員会)

学会論文賞受賞論文の英語翻訳について、学会論文賞選考委員会・グローバル展開委員会・学会誌編集委員会に検討するよう依頼した。

12. 学会論文賞の選考(学会論文賞選考委員会)

52 号・53 号(2020 年)~54 号・55 号(2021 年)の学会誌から論文賞選考委員 7 名により選考が行われた。常任理事会・理事会の承認後受賞者を決定し、発表と授与は次年度大会で行う。

13. 『異文化間教育事典』の刊行(事典編集委員会)

2022 年 6 月に刊行となった。刊行を記念し、2022 年 6 月 12 日(日)「異文化間教育の継承と創造」をテーマとするシンポジウムを開催する。各項目から佐藤郡衛氏「異文化間教育の方法と理論」、渋谷真樹氏「異文化間教育の対象」、工藤和宏氏「異文化間教育の領域」を執筆された 3 名にご登壇いただき、事典に記載された項目を手がかりに、異文化間教育に関する研究・実践のこれまでをふりかえる。今後、異文化間教育は何を創造していけるかに関し、参加者全員で議論を深める。

14. プレセミナーの実施(事務局)

2021 年 6 月 11 日(金)13:00~16:30 事務局主催 (Zoom) で三澤一実氏(武蔵野美術大学教授)を講師にお迎えし、「アート鑑賞による対話のデザイン —ダイバーシティを受け止める—」という題でワークショップを開催した。会員および日本国際教育学会から 30 名の参加があった。参加者からは「異質なものを受け入れることの意味について考えさせられた」「自分自身の教育活動がフィルターバブルを作るような活動になっていないか考えさせられた」「関わり合いから生まれ出るものの可能性を感じた」といった感想が寄せられた。

15. 学生会員支援事業(事務局)

第 42 回大会において、若手研究者支援の一環として、条件を満たす年次大会発表者の大会参加費を免除(返金)した。エントリー 8 名が手続きをした。

16. 会員数

2022年3月31日現在の会員数は、名誉会員11名、正会員784名、学生会員122名、通信会員13名、休会4名、維持会員4団体の計934名・4団体。

以上